

## 第5回運営・調整ワーキンググループの実施について

2025年12月23日に、第5回運営・調整ワーキンググループが海外鉄道技術協力協会会議室にて実施された。その内容については、下記の通りである。

### 1. 2025年度海外鉄道インフラ展開人材育成プログラムの評価等

2025年度海外鉄道インフラ展開人材育成プログラムのアンケート結果に関して報告を行った。人材育成プログラムのアンケート評価においては、総合満足度が5点満点中、平均4.73を獲得するなど高い評価を得た。特に、海外業務経験年数21年以上の参加者が全員5点を付けており、業務経験が長い参加者にも響く内容であったのではないかと分析された。知識系講座については、今年度より新設した講座である「海外ビジネス展開現場」、「事業リスクと財務分析」、「日本のTODと海外展開」が人気を博した。演習系講座については、必然性、効果、実現可能性のスキームに落とし込み、聞き手にどのように行動させたいかをベースにプレゼンテーションを作成する「提案演習」や海外鉄道プロジェクトにおける契約交渉を体験する「契約交渉ロールプレイ」の満足度が特に高かった。

また、6日間の対面講義と演習を通じ、単に知識を取得するだけでなく、海外鉄道インフラ展開に関わる様々な業種の方とネットワークを築くことができたといった声のほか、演習を通じて気づきを得られた、大局的な考え方を整理する思考のフレームワークが得られたといった受講生の声を報告した。(別添資料参照)

### 2. セッション4(ケーススタディ研修)の実施について

2026年度に実施する「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」については、今年度実施した6日の対面講義(セッション1・2・3)とオンライン講座「主要国事情」に加え、セッション4としてケーススタディ研修を実施する。

来年度より実施するケーススタディ研修においては、海外の鉄道プロジェクトに関する事例について、既存のケーススタディを活用して学ぶ方針である。本ワーキングにおいては、既存のケーススタディのうち、学ぶべき具体的な題材について議論を行った。

また、本邦企業による海外鉄道インフラ展開の事例についても学ぶべく、2026年度においてケーススタディを新規に作成し、2027年度より当該ケーススタディを実施することとした。



第5回「運営調整・ワーキンググループ」の様子



アンケート結果について意見を述べる  
国土交通省鉄道局小林国際課長

# 2025年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」開催のご報告

---

# 2025年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」 開催要領

## 人材育成プログラム開催概要

- 実施期間：2025年11月19日(水)～11月21日(金)及び11月26日(水)～11月28日(金)
- 開催場所：11/19,11/26 JICA市ヶ谷(新宿区市谷本村町10-5)  
11/20,11/21,11/27,11/28 JICA横浜(横浜市中区新港2-3-1)
- 参加人数：34名

## 人材育成プログラム実施体制

- 主催：一般社団法人海外鉄道技術協力協会
- 後援：独立行政法人国際協力機構、国土交通省、経済産業省、一般社団法人日本鉄道車両工業会、日本鉄道システム輸出組合

## 参加予定企業・団体(全34社・団体) ※2025年11月19日時点 (順不同)

業種	会社名・団体名
鉄道会社	JR東日本、JR東海、JR西日本、JR九州、JR貨物、東京メトロ、東急電鉄、京急電鉄、阪急電鉄
車両メーカー	日立製作所、三菱重工業、川崎車両、日本車輛製造、総合車両製作所
機器メーカー	日本信号、京三製作所、大同信号、三菱電機、富士電機、東芝、菅沼製作所
コンサルタント	オリエンタルコンサルタンツグローバル、日本工営、日本コンサルタンツ、パシフィックコンサルタンツ、長大
商社	住友商事、伊藤忠商事、三菱商事、ニシヤマ
国及び独立行政法人	国土交通省、経済産業省、国際協力機構(JICA)、鉄道建設・運輸施設整備支援機構

## 人材育成プログラム募集対象者

- 海外鉄道インフラ展開に従事する若手・中堅
- 20代後半から40代の参加を想定

## 人材育成プログラムの募集

- 募集時期：2025年6月2日(月)～7月15日(火)
- 参加費用：無料(プログラム開発期間のため)

# 2025年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」 実施スケジュール

セッション①②③ (要説編+スキル実践編+専門研修)						
h	11/19(水)	11/20(木)	11/21(金)	11/26(水)	11/27(木)	11/28(金)
0900-	アイスブレイキング	海外マーケット動向 (NRI)	PPPスキームへの取組事例(OCG)	提案演習 (TAO・OCG)	日本の鉄道と欧州規格の比較(OCG)	契約交渉ロールプレイ (TAO・OCG)
1000-	キーノート・スピーチ (森地教授)	本邦企業による鉄道運営(JR東日本)	日本のTODと海外展開(森地教授)		国際入札プロセス (OCG)	
1100-	我が国の国際外交戦略(外務省)		公共交通とデジタル化動向(NRI)	プロジェクトマネジメント論(OCG)		
1200-	海外インフラプラント輸出戦略(経産省)	プロジェクトマネジメントシミュレーション (TAO・OCG)	車両製造マネジメント(LTM)		国際標準化の枠組と動向(国交省・鉄道総研)	貿易実務 (マウンハーフ)
1300-			参加機会検討ワーク (NRI)	国際市場からの技術的要求事項(ARUP)		事業リスクと財務分析 (JARTSシニアフェロー)
1400-	鉄道インフラの海外展開(国交省)				国際ビジネスにおける認証制度(交通安全環境研究所)	事業採算性の検証 (ファイナンス専門家)
1500-	我が国のODA 戦略と鉄道分野の協力 (JICA)		最終ラップアップ (NRI)			
1600-	ネットワーキングイベント(本年度及び昨年度受講生)			事業収支シミュレーション (TAO・OCG)	修了式・写真撮影	
1700-	ネットワーキング交流会(関係者・受講生)					
1800-						

注) NRI:(株)野村総合研究所 OCG:(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル マウンハーフ:(株)マウンハーフジャパン TAO:(株)TAO Partners LTM:LTMソリューションズ(株) ARUP:オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド

上記に加えオンライン講座「主要国事情」として、オーストラリア、バングラデシュ、東アフリカ地域(タンザニア、ケニア、ウガンダ)の3つのエリアの海外鉄道インフラ展開に関する情報提供を行うため、最低1エリア分の聴講をお願いします。オーストラリア:1/21(水) 13:30~16:00 バングラデシュ:1/28(水) 13:00~17:00 東アフリカ地域:2/6(金) 15:30~18:30

# 2025年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」 当日の実施の様子

## ■ 日本のTODと海外展開(森地教授)



## ■ 事業リスクと財務分析(JARTS 村崎人材シニアフェロー)



## ■ プロジェクトマネジメントシミュレーション(TAO・OCG)



## ■ ネットワーキングイベント(本年度及び昨年度受講生)

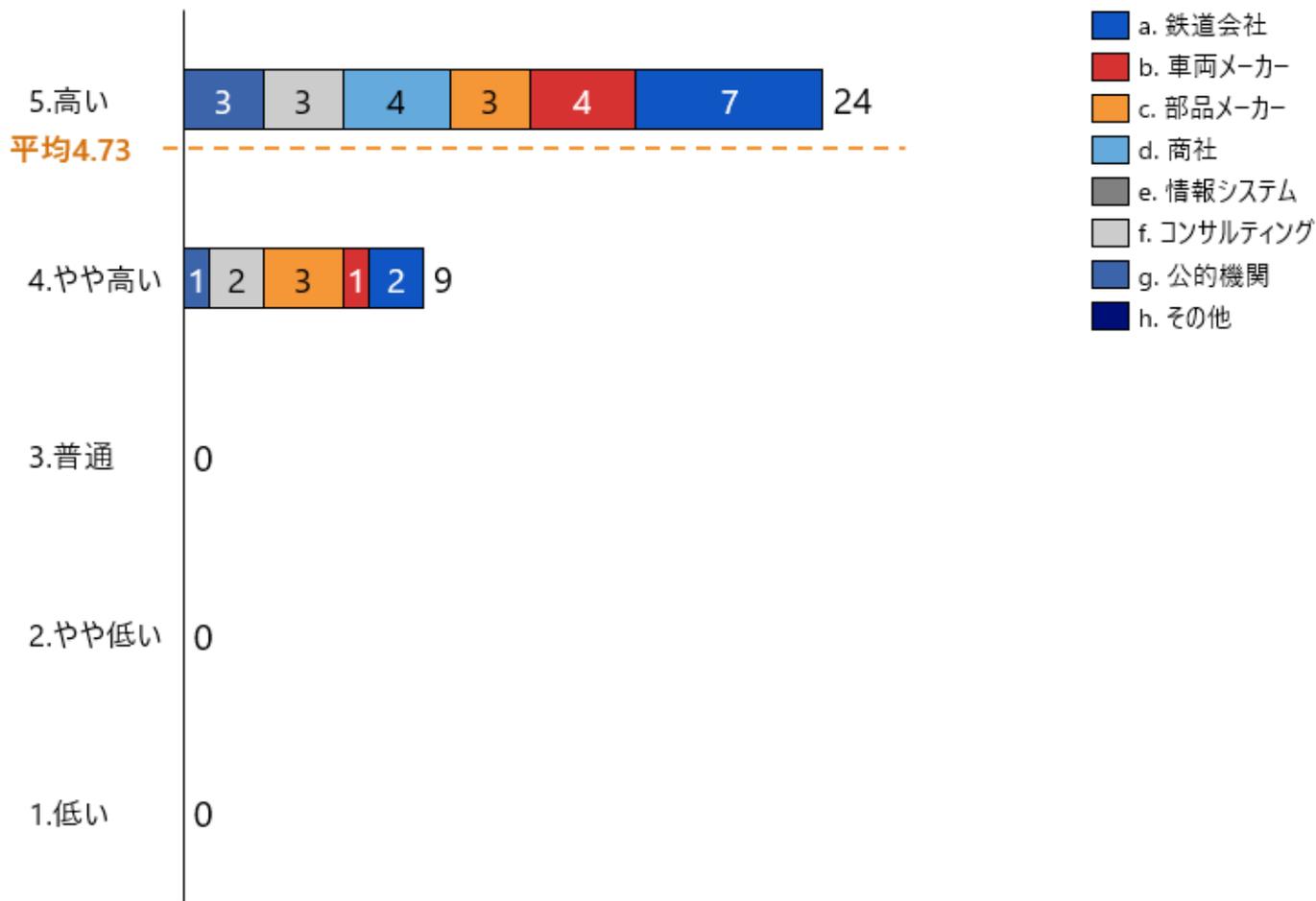


# 2025年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」 アンケート結果

総合満足度（所属業界ごと）

N=33人

研修全体を通じての感想、満足度をお知らせください



⇒研修全体の満足度は、全ての回答者が「高い」、「やや高い」と回答し、そのうち7割以上が「高い」と評価した。

# 2025年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」 アンケート結果

満足度の具体的な理由（所属業界ごと）

N=33人※複数回答を含む



⇒満足度の理由として最も多かった項目は「人間や組織のネットワークが得られたため」であった。

# 2025年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」 アンケート結果

## 【座学】各講座の評価（上位講座を抜粋）

講座名	担当	総合満足度平均
海外ビジネス展開現場	海外実務経験者	4.65
事業リスクと財務分析	JARTSシニアフェロー	4.48
日本のTODと海外展開	森地教授	4.38
PPPスキームへの取組事例	OCG	4.35
海外マーケット動向	NRI	4.33
我が国のODA戦略と鉄道分野の協力	JICA	4.28
国際標準化の枠組と動向	国土交通省・鉄道総研	4.25
プロジェクトマネジメント論	OCG	4.24
本邦企業による鉄道運営	JR東日本	4.22
国際ビジネスにおける認証制度	交通安全環境研究所	4.22

⇒海外実務経験者の現場エピソードが人気を博した。また、日常業務から離れ、総論・業界動向について取り入れる機会となるものに評価が高かった。

# 2025年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」 アンケート結果

## 【グループワーク編】各講座の評価（全講座）

講座名	担当	総合満足度平均
提案演習	TAO・OCG	4.69
日本の特殊性からアプローチする異文化理解	TAO	4.61
契約交渉ロールプレイ	TAO・OCG	4.55
事業収支シミュレーション	TAO・OCG	4.39
プロジェクトマネジメントシミュレーション	TAO・OCG	4.33
最終ラップアップ	NRI	4.30
参入機会検討ワーク	NRI	4.19

⇒プレゼンやコミュニケーションの理論等に係る講座の評価が高く、これらが日本企業で依然として定着していないことが窺える結果となった。

- ・全ての講義において、目的が練られており、知識習得系と実践系の講義がバランスよく配置されていた。
- ・研修参加メンバーも若手から中堅まで、事業者からメーカー、公的機関、商社とバランスよく参加していた印象。また、話しやすい方が多く、グループワークもやりやすかった。
- ・講師の方々には感謝申し上げます。

海外鉄道展開の全体像やプレイヤーごとの立場の違いがわかり、大変勉強になりました。海外鉄道関連部署に配属されて一定期間が経ち、ある程度知識が身につけてきた人材が更なるステップアップをするうえで、非常にためになる研修だと感じました。

内容だけでなく、講演の組み方やグループ分けにも交流を促す配慮を各所に感じました。これから会社に戻って新たな視点で海外事業に励みます。ありがとうございました。

当方にとって、業務で得るには何年分になろうかという知識、経験量でした。大変得難いものでした、本当にありがとうございました。

海外のみならず、国内のプロジェクトマネジメント、人脈、人間関係においても糧となる貴重な知識を得ることができたと感じております。誠にありがとうございます。

6日間の講義、疲れましたが、本当に実りのある時間を過ごせました。講師の方々や、受講された方々みなさんの話を聞いて、とても刺激になりました。今後、この講義の内容を活かしてプロジェクトや日々の業務に取り組んでいきます。皆様、本当にありがとうございました。

改めまして、JARTS様はじめ、本プログラムをご手配いただきありがとうございました。非常に考えぬかれた、力の入ったプログラムだと感じました。普段はお会いしないような受講生の企業や講師の方々に「弱いつながり」ができて非常に光栄でございます。弊方はメーカーでありながら、TODなど、自分の会社に勤めているだけではわからなかったような知識を身に着けることができたのがよかったと感じております。また、普段目にすることはあっても話すことがない競合他社や、初めてお会いをするような鉄道事業者様ともご縁ができたことを非常に光栄に思います。